協働学習を取り入れた初級日本語オンライン授業の試み

石﨑俊子（名古屋大学）.

Attempt of an Online Beginner's Japanese Class with Collaborative Learning

Toshiko Ishizaki, Nagoya University

要旨:初級の日本語オンライン授業に Google Classroom を取り入れ、Google Slides や Google Document 等を利用した協働学習を導入した授業を行った。授業の実践報告を行うとともに、学習者のインタビューから得られた結果をもとに学習者の反応を明らかにするとともに、協働学習の効果を考察する。

キーワード：協働学習、Google Classroom、オンライン授業

1. はじめに

舘岡（2003）によると、「協働」を「学習者同士がお互いに働きかけ合いながら協力して学ぶ」と定義し、その協働に重点を於いた学習を「協働学習」としている。津田(2015)は協働学習では学習者中心の活動で進め、教師はファシリテーターとして学習者への介入を避けることを提唱している。教師が学習者への介入を避けること言うことは、言い換えれば教師への依存度が下がることとなり、学習者が能動的に授業に参加できるようになると予想される。本稿では、協働学習が初級日本語オンライン授業に導入した結果、学習者はどう捉えたのかをインタビューを通して明らかにし、協働学習の効果を考察する。

2. 初級日本語オンライン授業と協働学習

2.1 協働学習に至った背景

本稿の対象となる名古屋大学初級日本語オンライン授業は毎日 1 コマ 90 分授業を 15 週間継続する初級前半および後半レベルの 2 つのコースである。Covid-19 の影響で 2020 年 4 月より名古屋大学の日本語教育は Zoom を使ったインタラクティブな双方向授業を行ってきた。学習者には全員メインテキストとなる教科書の購入を義務付け、それをもとに授業を進行している。Zoom を駆使することにより対面に限りなく近い授業を行うことが可能だが、紙ベース中心となる従来の対面授業で使用する副教材をオンライン授業で使用することは困難であり、それに代替するものを模索していた。そこで注目したのが Google Classroom である。Google Classroom の最大の利点はリアルタイムでファイルを共有でき、複数同時編集が可能という点である。Google Classroom を導入に伴い、Google Slides や Google Document、Jamboard が利用可能となり、それらを利用した様々な活動が結果的に協働学習に繋がることとなった。

2.2　学習者に評価された協働学習の例

初級前半および後半レベルの 2 つのコースの受講者に授業内で使用してきた教材を Google Classroom で見てもらい、どの教材が良かったか、また、その理由をインタビューで聞いた。以下は学習者の評価が高かった教材である。図 1 から図 3 は Google Slides の例で、図 4 は Jamboard の例である。それぞれのファイルがリアルタイムで共有でき、複数同時編集が可能であるという特徴を最大限に利用し、協働学習を行った。

図 1 はあらかじめ教師がイラストを Google Slides に挿入しておき、学習者がそのイラストに関連する会話をペアで作成するという活動である。学習者個々に Google Slides にあるトピックに基づいた文章を書かせて、クラス内で共有するという活動は多々行ってきたが、ペアで話し合いながら会話を作成するという協働学習が極めて高い評価を得た。Google Slides は PowerPoint とインターフェースはほぼ同じであるため、学習者は Google Slides の使用に関しては全く問題なかったが、最初は日本語でタイプをすることに慣れていなかったため、文字を挿入するのに時間がかかったという意見があった。また、イラストは簡単に変更することが可能であり、ペアの中には絵を紅茶からストロベリーミルクに変えるなど課題を遂行するだけではなく、自分たちが実際にするであろう会話を想定して活動していた様子が伺えた。

図 2 の活動もペアで行う活動であり、お互いの 1 日のスケジュールを「朝、何時に置きますか。」「夜、8 時ごろは何をしますか。」など質問し合い、回答を円グラフに記入していくというものである。この活動を通して日本語での質問、回答の練習をするだけではなく、このコロナ禍でクラスメートが時差の関係で朝の 0 時に起きて 2 時から日本語の授業を受け、正午に寝るという過酷なスケジュールの中、日々の授業に頑張って参加していることに感銘を受けたと話している学習者も見受けられた。

図 1：Google Slides の例 1

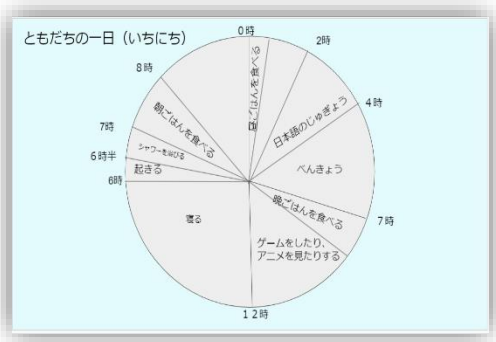

図 2：Google Slides の例 2

図 3 は学習者の作文をもとにした読解の協働学習である。学習者が課題として提出した作文を教師があらかじめ一人ずつ Google Slides に貼り付け、その下に質問コーナーを設けておく。学習者は授業中に Google Slides のクラスメートの作文を読んだ後、作者に質

問を書き、また、自分への質問に答えるという活動である。作文の文法、語彙、表現などの間違いに関しては学習者が個々に提出期限までに提出した Google Document の修正箇所をすでに教師が指摘し、学習者は修正を終えている。したがって、この活動では間違いを指摘するのではなく、読解として時間の許す限りクラスメートの作文を読み、質問し、答えるというものである。友達の作文を見て、新しい語彙や表現に気づき、使ってみようと思うことがある、クラスメートはこんなに良い作文を書いているから自分も頑張らなければいけないと言う励みにもなる。また、クラスメートが自分の作文に質問をしてくれることが嬉しく、それに回答するのも楽しいという声が聞かれた。

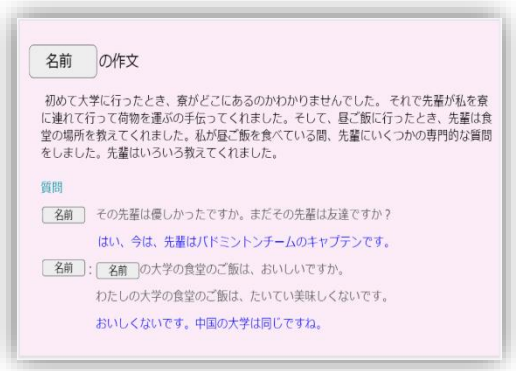

図 3：Google Slides の例 3

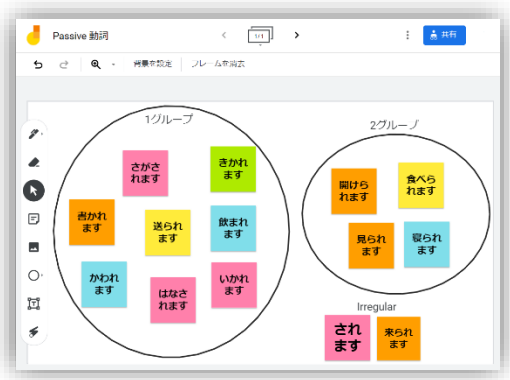

図 4：Jamboard の例

図 4 は Jamboard を使用した例である。従来、対面授業では教室内の学習者に何人かに白板に動詞を辞書形で書かせた後、その動詞を活用形に変換し、間違いをクラス全員で修正するという活動を行ってきた。その活動をオンライン授業でも継続したいと考え、方法を模索した結果、Jamboard に辿り着いた。Jamboard の付箋機能を使えば簡単に文字を挿入することができ、また、付箋に書かれた文字も簡単に修正することができる。当初はどの色を使ってもよいという指示で活動を行っていたが、そうすると活動に参加していない学習者がいても把握できないため、5 色ある付箋を利用して一人ずつ色を決めることにした。投稿された付箋については学習者全員で間違いを確認でき、共有することができる。この場合も自分のみならず自分以外の学習者から学ぶことも多いと学習者は語っていた。また、クラスメートとゲーム感覚で速さと正確さを競うことができる良い練習であるという声もあった。この Jamboard の活動は動詞の活用だけでなく、形容詞の活用など工夫すれば応用範囲は広いと考えられる。

以上の Google Slides および Jamboard を駆使した活動を通してクラスメートと協働で活動をすることにより、自分が知らないこと、また、気づきを得ることができ、また、オンラインではなかなか分かり合えないクラスメートのことを知る良い機会になるという声が多く聞かれた。このことから、協働学習は学習面のみならず、人間関係の構築に貢献するなど社会的側面の観点からも効果的に機能していると考えられる。

2.3　協働学習における教師の役割

教師の役割としては、津田(2015)が示すように介入を最小限にし、学習者間で課題を遂行させることを徹底した。教材を計画的に準備し、提示した後は、学習者が Zoom のブレークアウトルームで活動中に質問があるときは help 機能を使って呼び出すか、メインルームに戻って聞くようにと指示し、教師からはブレークアウトルームに入ることはしなかった。教師の介入がなくても、活動が滞ることはなく、質問もほとんどなかった。学習者に活動中に知りたい語彙や表現があった時の対応を聞くと、オンライン辞書で調べたり、ペアやグループで相談して問題を解決したとインタビューで回答していた。活動が終了後にはメインルームに全員を集め、それぞれの活動の成果を発表し、それについてファシリテーターとして適切なコメントをした。また、共有が必要な間違いは全員で共有し、全員で考えて答えを出すというプロセスを毎回行った。インタビューを行ったほぼ全員がクラスメートと共有することにより、学ぶことが多いという回答が得られた。ペアで協働で活動した後に、クラスメート全員で協働学習することが更なる深い学びに繋がっていると考えられる。

3.　まとめ

オンライン授業で学習者達が抱えている大きな問題の 1 つは孤独感であろう。九州大学(2019)が行った新型コロナウイルスによる学生生活への影響についてのアンケート調査によると、「孤独感や孤立感を感じる」と答えた留学生がおよそ 4 割に上った。筆者が行った今回のインタビューでは、回答者全員が授業はインタラクティブでクラスメートと共有できる機会が多く、孤独感を感じたことはないと回答していた。おそらく、協働学習を多く取り入れたことで、ペアもしくはグループで学び、他の学習者から孤立していると感じないのではないだろうか。また、協働学習を通じてグループで学習することで、学習者はお互いを理解し、お互いに助け合うようになったのではないかと考えられる。実際、ある学習者はペアで活動しているときは、クラスメートがそこは間違っていると指摘してくれるだけでなく、わからないときは説明してもらえると話していた。今回のインタビューを通して、協働学習は学習者を学習面で成長させるのみならず、異なる能力の学習者が互いに目標の達成に向けて協力し合うという社会的側面の成長も促すことが明らかになった。

参考文献

九州大学.2019.「九州大学の学生生活に関する学生アンケート」https://www.kyushu-u.ac.jp/f/40310/20_08_11_02.pdf(2021 年 6 月 20 日閲覧)

舘岡洋子.2003.「読解授業における協働的学習」,『東海大学紀要留学生教育センター』23, 67－83

津田ひろみ.2015.「協働学習の成功と失敗を分けるもの」,『リメディアル教育研究』10(2), 25-33